



「伝えたい木の文化、残したい美しい森」
美しい森林づくり推進国民運動

ANA・全日本空輸株式会社の 美しい森林づくり

全日本空輸株式会社をリーダーとするANAグループは、「人と地球を考える」をテーマに、『私の青空』と称した「地球環境を大切にする心の輪」を掲げる活動に取り組んでいます。「森づくり」、「沖縄のサンゴ再生」、「国際環境絵本コンクール」がその『私の青空』の大きな三つの柱で、「森づくり」は、国内五〇の空港を対象として、二〇〇四年から一〇年間の計画で、全ての空港の周辺で森づくりを行うことを目標としています。現在までに、国内で二〇空港、二七箇所での森づくりを実施しました。国内ばかりでなく、海外でも五箇所森づくりを行っています。

地元の特徴を活かしたネーミングを冠されたANAの森では、地元住民も参加した、楽しい緑の森づくりの活動が展開されており、これからも、残る三〇空港での森づくりを目指すなど、ANAの「森づくり」は全国に広がっていきます。

ANAによる『私の青空』の「森づくり」の取組は二〇〇四年に羽田空港を関連空港とした「天城湯ヶ島の森」（静岡県伊豆市）から始まり、同年度には五箇所植林を主体とした森づくりがスタートしました。翌年度

以降は、植樹のほか既存地区での下刈り等の育樹活動を実施しており、二〇〇五年度には九箇所（海外二箇所を含む）、二〇〇六年度には六箇所（海外一箇所を含む）、二〇〇七年度に六箇所（海外二箇所を含む）、二〇〇八年度には一四箇所森づく

りの活動が展開され、それぞれの地域でその地方特有の名称を冠し、地元の方々に馴染み深い名称を冠して、二〇〇九年度には長崎空港の「天正少年使節の森」、能登空港の「きりこの森」、小松空港の「安宅関の

森」の三箇所新規の森づくり活動を展開するほか、国内の一一箇所植林や下刈り、森林環境教育等の活動を計画しています。二〇〇七年には前任者からのバトンを引き継ぐ形で「私の青空・森づくり」を担当しているANA・CS



アカコッコがペイントされた三宅島行きのANA・ボンバルディア機（写真上）



三宅島「アカコッコの森」（写真左）



ANA CSR推進室の佐藤祐子アシスタントマネジャー

R推進室環境・社会貢献部の佐藤祐子アシスタントマネジャーは、「辞令が下りた時はそれまでの職場とは全く違ったセクションで、経験も知識も無く、正直戸惑いがありました。しかしながら、仕事を通じて全国各地の方々と連携を深めることが出来、また、企業としての目標が高く課題も本当に多いので、今では非常にやりがいのある仕事であると、自負している次第です」と語り、目標の全国五〇空港の

全てで森づくりを実現することに意欲を沸かせています。

佐藤さんにとって、昨年の森づくりの中で印象の深かったものは、三宅島空港で行った「アカコッコの森づくり」のよう



飛行機がかすめて飛ぶ鳥取空港「白兎の森」(写真上)成田空港「千葉若葉の森」での植樹(写真中)千歳空港「らんこしの森」緑が育った森で下刈り(写真下)

です。三宅島は二〇〇〇年の噴火により航空機の就航が中断されていましたが、昨年四月に就航が再開されたことを記念してANAが東京都に企画提案し、三宅島の島民からも好感を持って受け入れられたのがこの「アカコッコの森づくり」です。ANAがウェブ上でツアアの募集も行ったところ、ボランティアの参加者が多数集まり、にぎやかな森づくりのイベントとなりました。

佐藤さんは「森づくりで一番苦労するのはフィールドの確保です」と指摘します。森づくりのフィールドは一部例外はあるものの、その多くが地方自治体が所有する公有林や国有林です。しかしながら、「自治体によって企業の森づくりへの関心や制度に非常にバラツキがあります。」

制度が整備されているところでは森づくりのフィールド確保もスムーズに進みますが、そうでない場合は一から始めることとなりすぐ大変です。そういう点で、森づくりへの関心を高める活動は、ANAだけでなく、美しい森林づくり全国推進会議でも積極的に進めて頂ければと考えています」として、国民世論をさらに高めていく必要性を指摘します。

このように積極的な活動を展開しているANAの佐藤さんですが、最近の希望は「もう少し、どっしりと腰を据えた森づくりを展開してみたい」とのこと。「ANAの森づくりは、一箇所に三〜五年の期間をかけて、植樹・下刈り・育樹といった活動を展開しますが、その後の手入れや管理は空港近くの支店に移譲し、



米子空港「ハマヒルガオの森」

地元の人々の参画を得て進めてもらうのが一般的。中には、千歳空港の『らんこしの森』のように六〇年間の分取育林契約を結び、社内レクリエーションの場として活用する例も有りますがこれなどは例外的で、永く手をかけるといったシステムとはなっていません。森は数代に渡って成長していくもので、ANAの森づくりも、もう少し別の方法で進めていくことを考えていきたい。一〇年計画で取り組んだ五〇空港の森づくり。その目標達成後に絞った、新たなチャレンジを既に考えているようです。